



メディアのデジタル化が意味すること

少し古い話で恐縮だが、本号の特集「放送・通信融合」を取材する過程で、本誌創刊号(1994年9月発行)の巻頭に掲載した今泉氏のメッセージを思い出した。「インターネットに何を見るか。」と題したその記事は、デジタルな世界観やインターネットとメディアの関係などについて述べている。以下はその一部だが、読んでみてほしい。

- <創刊号「インターネットに何を見るか。」より抜粋> -

デジタル機器は媒体と表現を分かつことによって、アナログ機器の持つさまざまな制約を超越し、メディアの可能性を大きく広げようとしている。(中略)

今やメディアはヒトの表現や関係のあり方に大きく介在しつつある。特にメディアのデジタル化は、アナログの世界観に立っている私たちの行動規範に大きな影響を与え、変革を促すはずだ。気づかないうちに確実に、社会全体がデジタルパラダイムのもとに再構成されていくだろう。(中略)

これまでヒトは、時代時代に手にした道具を活かし、それによって豊かな生活を送れるよう社会の枠組みを再編してきた。そして、その“とりあえずの結果”が現在の世の中なのだ。私たちの社会を形づくるさまざまな仕組み・制度は、みんながそれぞれの時代の中で模索し、形づくっていくものなのだ。

デジタル環境をどう使い、いかに可能性を広げていくかは、技術の側から投げかけられた課題である。私たちはあらゆるチャンネルを通じて、技術の側にフィードバックを投げ返さなければならない。

(今泉 洋:当時、コラムニスト。現在、武蔵野美術大学教授)

本号の特集「放送・通信融合」では、ビジネス当事者のほか、大学、弁護士、行政など多方面の方々に取材させて頂いた。そこで見えてきたことは、まさに今泉氏が指摘している「技術から投げかけられた課題にどう対応するか」に苦闘している姿だった。インターネットがWeb・mailだけでなく、音声や映像などのリアルタイム情報まで表現可能になった今、電話、放送という社会の根幹をなすメディアの枠組みに再編を迫っているのである。

巷では、「ライブドア・ニッポン放送」問題が大きな話題になっている。第1ラウンドは証券制度を舞台とした戦いだが、第2ラウンドはメディア制度、特に放送制度が舞台になってくることだろう。この問題は対立構造が分かりやすく「観客」としてはとてもおもしろいが、話が、私たち全員の情報基盤であるメディアになってくると、いつまでも観客だけではいられなくなる。

井芹昌信 [iseri@impress.co.jp]

今泉氏の原稿の全文は、「INTERNETmagazine バックナンバーアーカイブス」で無料で読むことができます。122ページ参照



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp